

こどもの四季

第3号
2019年
11月1日発行

編集: 副院長 岡本友樹

だいぶ寒くなってきましたね

インフルエンザの患者さんが増えてきています。冬になると風邪や嘔吐下痢症など色々な病気が流行します。手洗いやマスクの着用を心がけ、体調が悪いときは無理せず休養をとりましょう。

今回の「こどもの四季」はアレルギー性鼻炎に対する舌下免疫療法、映画「いのちスケッチ」の紹介です。院長コラムでは最近使われなくなったお薬についてのお話です。

舌下免疫療法（アレルギー免疫療法）

お子さんの鼻水・鼻づまり、目の痒みなどで困っている方は多いと思います。子どものアレルギー性鼻炎・花粉症は増えており、小学生では3～4人に1人くらいの割合で鼻アレルギーがあるとされています。

アレルギー性鼻炎・花粉症の治療で最も重要なのは原因の除去です。年間を通して症状がみられる通年性アレルギー性鼻炎であれば、ダニやハウスダストが原因のことが多く室内の掃除（特にお布団やソファ、絨毯など）が重要となります。犬や猫などのペットが影響しているようであれば、飼育環境の見直しが必要となります。一方でスギやヒノキなどの花粉が原因であれば、マスクを着用するなどの花粉対策が中心となります。原因の除去に加えて、抗アレルギー薬や点鼻薬、点眼薬など症状に応じて治療を行なっていきます。

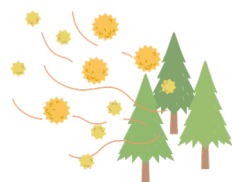
アレルギー性鼻炎・花粉症の新しい治療法として、最近は舌下免疫療法が注目されています。アレルギーの原因となるダニやスギ花粉をアレルゲンと呼びますが、このアレルゲンを少量から投与することで体をアレルゲンに慣らし、症状を和らげていくことを目標とした治療です。ダニとスギ花粉の2種類のアレルゲンに対する治療薬があり、昨年から5歳以上の小児にも処方できるようになりました。舌下錠というもので、舌の下に1分間保持して飲み込むお薬です。

治療開始後は数ヶ月で効果がみられますが、3～5年間と長期間治療を続ける必要があります。また、比較的安全な治療法ですが口の中の変感など副作用がみられることもあります。

これまで治療が難しかったアレルギー疾患で、治療（に近い状態？）が期待できる治療法ですが、毎日・長期間の治療となり、治療終了後にどれくらい効果が持続するか不明であるため、すべてのアレルギー性鼻炎・花粉症のお子さんにお勧めできる治療ではありません。

舌下免疫療法に興味がある場合は、医師にご相談いただき、更に詳しい説明を受けた上で治療法を選択していただければと思います。

（副院長）



映画「いのちスケッチ」

“One World, One Health”（一つの世界、一つの健康）という言葉をご存知ですか？まだ日本では馴染みのない言葉ですが、動物から人へ感染する病気の蔓延をきっかけとして世界的に広がっている考え方です。「人間と動物、それらを取り巻く環境はお互いに影響し合うため、人間・動物・環境の全てを良い状態にすることが真の健康につながる」という考え方になります。

福岡県大牟田市の大牟田市動物園は、「動物福祉に特化した動物園」として世界から注目されているそうです。その大牟田市動物園を舞台とした映画「いのちスケッチ」が11月に公開されます。動物の命や家族の絆をテーマとした作品です。映画の中でも飼育員の言葉としてOne Healthが出てくるそうです。芸術の秋に福岡が舞台の映画鑑賞などいかがでしょう？

映画の主題歌は若手医師2人による音楽ユニットInsheart（インスハート）です。彼らについては次号で紹介させていただきます。

（副院長）



いのちスケッチ

11/15（金）全国公開
11/8（金）福岡県先行公開

世界も注目する、小さな町の小さな動物園を舞台にした感動の物語。

院長コラム

使われなくなったお薬

お薬は使いようによっては毒にもなると言われます。副作用のないお薬はありません。お薬の説明書を読むとたいがい何十種類かの副作用が列挙されています。こんなに副作用がたくさんあるのに、そのお薬が保険適応になっているのは、副作用の実際の頻度が低く、お薬の効能が十分で治療に必要と認められるからです。しかし、過去には副作用が強く使用中止になったお薬や、初めは有効と思われたものの多くの患者さんに使ってみるとあまり有効性が見られず使用中止になったお薬もあります。

私が医師になったころ（45年前）、使われなくなった抗生物質にクロラムフェニコール（CP）があります。CPを使った患者さんの中に再生不良貧血という重い病気が起きることがあることがわかり、CPはその他の抗生物質が無効でCPしか有効でない場合に限ることになりました。そのため私は医師になって、CPを処方したことは一度もありません。

私たちの最重要臓器である脳には血液脳関門というものがある、有害な物質が脳の中に簡単には入り込まないようになっています。しかし、お薬の中にはどうしても脳の中に入っていくものがあります。脳の中に入って脳の病気を治す目的がある場合には良いのですが、脳の中に入って副作用を起こすものはお薬としては失格です。長年使われてきたお薬で、最近2つのお薬が国際的に使用方法に関する注意を出されました。痒みや鼻水を軽くするためにじんましんや風邪によく使われてきた抗ヒスタミン薬（ペリアクチンなど）は脳に入って子どもにけいれんを誘発することがあるということが分かって特にけいれんのある子どもには使用されなくなってきました。また強い咳止めとして重宝していたリン酸コデインが呼吸を抑制することがあるのが分かってきたため12歳以下の小児には使用しないように警告が出されました。（幸いというか、私はそのような強い副作用を経験したことはありません。）

最近、脳内移行の少ない抗アレルギー剤が開発され、じんましんやアレルギー性疾患に使われています。当クリニックでは、強い咳に対しては痰を出す理学療法を指導し、また漢方薬の処方に対応しています。また強い咳の原因が、気管支喘息や副鼻腔炎であれば、それに対応する治療を行っています。

（院長）



Rose Memory

“One for all, All for one”

今とてもラグビーが盛り上がっています。そのラグビーでよく耳にする言葉です。この言葉が大好きです。助け合いの精神というよりも、もっと一人一人が自立した存在として、自分を生かし、そしてまた他を生かすという言葉かなと思います。

何よりベスト8に残った試合の後、ある選手がインタビューで「みんなが頑張ってくれるので、みんなのために自分も戦いました」と語っていました。

すばらしい！ “One for all, All for one”



お知らせ♪

インフルエンザワクチンの予約は受付にご相談ください。

【ローズホールイベント】

子育てカフェ

日時：11月12日(火) 13時～14時半

参加費：無料

内容：嘔吐下痢症について

タティングレース教室

日時：11月30日(土) 13時～15時

参加費：1,000円/人（材料費）



おかもと小児科クリニック

〒813-0025

福岡市東区青葉2丁目8番34号

TEL: 092-691-0012

FAX: 092-691-0013

HP: <http://おかもと小児科クリニック.com>